



石原社長定例記者会見概要

10月1日午後3時から、石原社長による定例記者会見が、放送センター20階役員大会議室で開かれました。概要は以下のとおりです。

<編成関連>

上期は、いまひとつドラマが低調で、全体としては満足すべき結果が出せなかった。ただ、バラエティが好調の金曜日に加え、このところ、『水曜日のダウンタウン』『モニタリング』『炎の体育会 TV』など、水曜、木曜、土曜のレギュラー番組も安定してきている。今後ドラマが安定してくれば、良い勝負ができる。10月改編のドラマは宮藤官九郎さん脚本の日曜劇場『ごめんね青春！』をはじめ、期待できるラインナップになっている。

『アジア大会』は、2020年東京オリンピックに向け、ゴールデン、プライム帯を中心に80時間を超える放送枠を編成したが、競泳やレスリングで日本人選手が金メダルを多く獲得し、視聴率はゴールデン、プライム帯とも平均で2桁を記録している。あと4日間となったが、今日もサッカー女子の決勝などが予定されており、大変期待している。

<営業関連>

上期のタイムセールスは、ほぼ前年並み。ネットタイムでは、レギュラーセールスは前年を若干下回ったが、単発の『ワールドカップ ブラジル大会』および『アジア大会』が、前年の『世界陸上モスクワ大会』を上回る売上を達成し、前年並みとなった。一方ローカルタイムは、レギュラーセールスが前年並みとなりそうだが、単発が前年実績を下回ることもあり、前年をわずかに下回る見込み。

スポットセールスは、8月の東京地区の投下量は好調だったが、9月の投下量はやや弱含みで、TBSは上期トータルでは前年比99%程度となる見込み。

総収入では、上半期全体で前年並みとなりそう。

下期の見通しは、ネットタイムについては、レギュラーセールスが苦戦を強いられており、単発に関しても前年の『冬季ソチオリンピック』や単発ドラマ『リーダーズ』の反動もあって、前年実績を下回る見込み。ローカルタイムに関しては前年を上回る見込み。下期のスポットセールスは、消費増税の影響が不透明なこともあり、今後、注意深く推移を見ていく必要がある。

〈事業関連〉

映画では、吉永小百合さん自身がプロデュースした「ふしぎな岬の物語」が10月11日に公開される。モントリオール世界映画祭で「審査員特別賞グランプリ」と、「エキシメンカル審査員賞」をダブル受賞した、味わい深い作品なので、多くの方々にご覧いただきたい。赤坂ACTシアターでは、10月7日から、「ジャンヌ・ダルク」を上演する。話題の若手女優、有村架純さんが舞台に初登場する。

『SASUKE』の海外展開については、アメリカ現地版が14週連続同時時間帯視聴率トップを記録、この夏だけでも全米でのべ1億人以上が視聴した。また、ヨーロッパで初めての現地制作版が、スウェーデンで収録され、来年1月から放送される。中東では、トルコで現地制作版が9月から放送され、高視聴率を獲得するなど、『SASUKE』は世界レベルのコンテンツに成長している。今後、世界選手権を日本で開催できるよう現場が頑張っている。

〈次世代スマートテレビ向けサービス〉

TBS テレビでは、今日10月1日から、次世代スマートテレビ向けサービス「TBS Hybridcast」の放送を始めた。これは、ウェブとの連携により、視聴者それぞれにとって最適な情報を、データ放送よりさらに高画質でお届けするもので、本格的なサービス開始は民放では初となる。

〈ラジオ関連〉 TBSR&C 入江社長

8月聴取率調査の結果、TBSラジオは79期連続トップを獲得。しかし数字は前回から大きくダウンして過去最低を記録することとなった。全体SIUも前回より0.2ポイントダウンしてこちらも過去最低タイ。現場にはそれぞれの番組を見直すきっかけにと伝えている。

10月改編はナイター枠中心で、改編率13%程度。TBSアナウンサーほか初めてラジオでレギュラー出演という方も多く、新しい人材が育ってくれることを期待している。

営業概況は、9月タイムは上期初めて前年をクリア、スポットも好調。上期はタイム・スポット合計で予算はクリアし、前年越えもクリアできる見込み。

イベント関連は11月2日、3日「JRN50周年記念 TBSラジオ大感謝祭・ラジフェス2014」を赤坂サカスで開催、公開生放送やイベントでラジオの魅力を直接リスナーにお伝えする。

FM補完中継局については、9月3日に予備免許が交付された。2015年春以降の開始を目指して送信の準備作業、受信機対応を進めていく。

以上